

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>プロアマ・レンジャー</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.550</b>	△RG <b>0.038</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：レンジャー**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：ランド・レイダー**

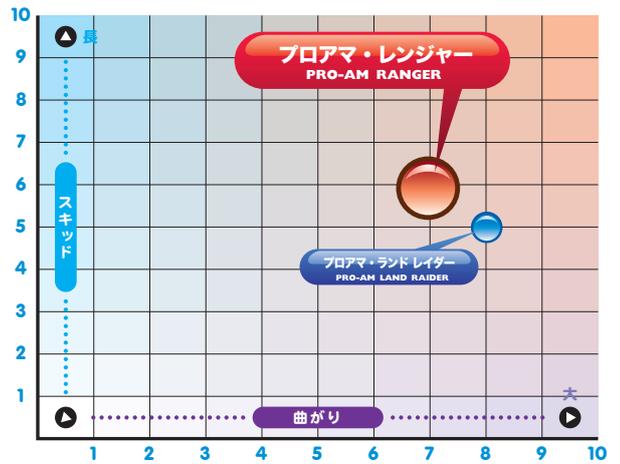
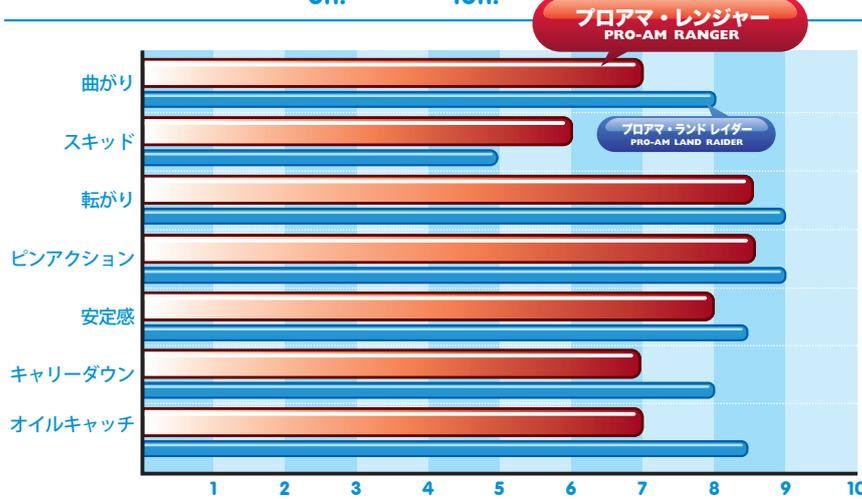
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **5** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

PRO-AMモデル再構築。ABSボール開発チームはかねてからPRO-AMモデルを一から見直し、その領域で最高峰のものを追いもとめ開発を続けてきました。その第一弾となるのがこのミッドプライスのRANGERです。Core TechnologyからCoverstockまで今までのデータを白紙から作り上げた全くオリジナルで、走ってキレルを信条とした攻撃的なスペック。Mediumコンディションから以下、ABSが取り扱うすべてのブランドでもこの領域最高峰のボールに仕上がった自信作です。特に拘った部分はドライゾーンでの向きの変わり方と言っても良いでしょう。PRO-AMモデルの歴史の中であの当時ABS社になかった性能領域をPRO-AMで出せたことが多くのユーザーに受け入れられ、INVADERシリーズへと受け継がれていきました。今回のこのRANGERも同じMedium領域でも今までのABSブランドにない性能領域に位置するので、ABSブランド内でも、「もう少し先での動きが欲しい」と思った時に、このRANGERを選択すると良いでしょう。実際に様々なブランドのボールと投げ比べると、このRANGERの生命線はbackendのメリハリのある動きにあると言えます。他のブランドで切れるイメージのボールでもRANGERの前では丸く感じてしまうほど、角がでるイメージが前面に感じられます。スキッドは長めに感じ、Mediumから以下を性能領域に作り上げましたが、ドライゾーンでの反応が強いために曲がり始めてしまうと、思っている以上に曲がるイメージを持ち、性能領域を超える曲りを感じてしまうのも少なくないでしょう。この性能でミッドプライスの価格帯での発売ですが、日本限定International製品のPRO-AMモデルの底力をしっかりとしたPerformanceで感じて頂けるはず。

### 特記事項

**新しく生まれ変わったPRO-AMモデル第一弾はミッドプライスのRANGER。価格帯を越えるbackendの強いグリップの性能を是非お試しください。**